

**3代目は和製コロムブス!?**  
**「メイドインKOYO」を世界へ!**

先代の2代目社長・山下善伸が生み出した数々の金属パーツ。じつはその技術を継承するだけでは、今日の向陽の繁栄はなかった。バブル経済崩壊さなかの1994年に入社した3代目・雅伸。20代半ばながら「周りから信頼を得るには先代とは違う、自分の実績を作らねば」と海外に目をむけ始める。初めての海外営業は、シンガポールで開催された家具の見本市。各ブースに飛び込み営業を繰り返したという。転機は2001年、昇降パーツ「LEGMAN」がドイツの国際家具見本市でインターツム賞を受賞したこと。「メイドインKOYO」は世界に通用する」と確信した雅伸は、まず東南アジアに販路を広げ、2013年にはドイツに支店を設けた。技術面でも座椅子のパーツをソファ用に進化させ、ドイツやイタリアの高級家具ブランドで使われるようになった。生産面では、2006年に中国に開設したパーツの組立工場を、人件費の高騰や世情から2018年にベトナムへ移した。常に次の時代を予測し、「メイドインKOYO」を世界へ広めた雅伸の行動力は、全売上の8割は海外という今のグローバルな向陽へとつながっている。

**向陽の海外進出に欠かせない3拠点**

**向陽の経営理念**

**“Heart & Technology”**  
ハートアンドテクノロジー  
**モノづくりはヒトづくりから**

じつは3代目・雅伸が入社した時は、幹部を中心に1/3の社員が退職した経営危機の時期。雅伸は経営塾で信頼関係の重要性を学び、技術力の前にはまず人間性を高めることの大切さを実感。1996年に経営理念として“Heart & Technology”を唱え、社内外との信頼関係を築く向陽マインドの根幹となっている。

**海外ではじめて組立工場を設立**

**中国**

↑2008年に設立した「東莞向陽金属製品有限公司」は、中国国内で販売と部品の購買がメイン

←2006年に中国・広東省に設けた、かつての工場兼営業所

**月産約60万個を組み立てる、アジアのハブ**

**ベトナム**

↑2018年にベトナム・ハノイに設立された「KOYO Hanoi Limited」

↑ベトナムの工場では、約120人の現地の人々が働いている

**“世界のKOYO”はココから始まった**

**ドイツ**

↓ドイツ・デュッセルドルフに拠点を置く「KOYO Germany GmbH」のスタッフ

↑2001年、世界最大級の家具見本市「インターツム」で「LEGMAN」がインターツム賞を受賞

↑2007年にドイツで開かれた展示会の様子

**「地球規模のビジネスリーダーへの道のり」の巻**  
**向陽のターニングポイント2**

**If you want to sell that product in Japan, you have to use parts made in Japan!**

その商品を日本で売るなら日本製の部品を使わんと!

ある時、シンガポールで展示会に参加し、可能性のあるブースに「飛び込み営業」

先代の功績を継承するだけじゃダメだ!

数々のヒットパーツを生み出した、前身の向陽技研に入社した3代目・山下雅伸。

日々モンモンといた...

1994年 25歳

そしてテーブルなどに使う昇降パーツ「レッグマン」がドイツ・ケルンの国際展示会にてインターツム賞を受賞

まずは台湾やマレーシア、タイなどで販売を開始

ヨシッ! うちの製品の販路はやっぱり海外や!

2001年 32歳

中国・広東省にパーツの組立工場を開設

1日2万個を生産!

中国から世界に行くぞ!

2006年 37歳

2003年に社長に就任

ドイツ・デュッセルドルフに営業拠点を開設。ドイツやイタリアの高級家具ブランドの商品に金具が採用される

ソファのトレンドを生み出す国で認められた!!

2013年 44歳

中国の組立工場をベトナム・ハノイへ移転

次の舞台はインド!

2018年 49歳

今や取引のある国は30カ国以上、売上の約8割は海外!

市場は地球! 向陽橋と共にさらに飛躍する企業へ!

30年近く国内外の業界展示会に製品を発表し続けるなど、チャレンジは続く...

3代目・山下雅伸  
地球規模のビジネスリーダー

2018年 49歳

未来の社員のために、よりよい環境を残したいですね

向陽株式会社 代表取締役社長  
**山下雅伸** やましたまさのぶ

1994年に前身である向陽技研株式会社に入社。1998年に「Heart & Technology」を経営理念に制定するとともに、販路を海外へ広げ、中国に組立工場を設立(のちにベトナムへ移転)。2003年より現職。

5

**日本のローカルブランドから世界のトップブランドへ!**

技術よりまず内面磨き、全員参加型の経営を

1996年に経営理念として「Heart & Technology」を設定しました。ただ仕事の結果を求めるだけでなく、全社員の生きがいと物心両面の幸福を追求する姿勢が大切だと思います。また経営者に経営を任せ、上司から言われたことをただこなすのではなく、会社がどこを目指しているのかをみんなで共有し、次世代へバトンをつなぐために個々が考えて行動する。多様化が進む激動の時代だからこそ、その一体感が企業の強みになる、と考えています。

**「Heart & Technology」**

2024年、タチバナ精機株式会社は当社のグループ会社に加わりました。鉄で金具パーツを製造する弊社に対し、タチバナ精機はステンレスや銅、アルミを使ってカメラなどの精密なパーツの製造を得意としています。今後は金型や設備を共有し、家具以外にもんな事業の柱を作っていくのが課題ですね。1990年代後半から20年に一度、ドイツで開催される国際家具見本市に向けて新製品を開発してきましたがこれからもお客様から「こつ」のがほしかったと言われる提案型企業であり続けたい。2031年には総売上が100億円となる企業を目指します!

先代が築いた自社製品、さらに性能を高め、海外へ

わが社は正15年(1926)、当時19歳の祖父が園芸用のスコップなどを製造したのが始まりです。徴兵・復員後に焼野原にバラックを建て、友人から借りた機械で依頼されたものは何でも作りました。父である2代目善伸はそんな下請けからの脱却を図り、サマーベッドや座椅子の角度を調整するオリジナルパーツを開発。「特許が取れないものは作るな」が口癖で、価格競争に左右されにくい自社製品にこだわりました。私が入社してからは、海外に販路を見出し、座椅子パーツの性能を高め、ソファ用を製造。今はソファの本場であるドイツやイタリアの高級家具メーカーで向陽のパーツが使われています。

技術と人材が我が社の誇りです

創業100周年を迎えて  
**山下雅伸社長にインタビュー!**

海外進出を成し遂げた3代目社長が語る、振り返って今思うこと、これから向陽が向かう未来とは…?

道なき道をいくファーストランナーであれ!

経営理念を明文化しています!

今では2度ずつの角度調整が可能なパーツも!

4

次は「向陽ってこんな会社」だよ